

2006年 チャレンジ！絶滅危惧種アサクサノリ復活計画 参加申込書



アサクサノリ養殖者（金田漁協所属）

井上 週
元木 武美
実形 博行
近藤 博一
石川 金衛
金萬 智男

【連絡先】

〒292-0005 千葉県木更津市畔戸8番地
NPO法人 盤州里海の会 理事長 金萬 智男(きんまん のりお)
電話 / FAX: 0438 - 41 - 1344
e-Mail: info@satoumi.net
URL: <http://www.satoumi.net/>

チャレンジ！絶滅危惧種 アサクサノリ復活計画プログラム参加概要

参加費：1口～8,000円（複数参加申し込み可能）

募集口数：最大数1,000口募集（生産枚数により参加費は8,000円以下で変動有り）

募集期間：2006年8月12日～10月31日締切り予定

趣旨：

絶滅危惧種Ⅰ類に追いやられたアサクサノリ復活を通じて東京湾の干潟環境との繋がりを多くの方に広報する事で身近な生活環境との係わり合いを知っていただく。又、江戸時代から続きながら、約30年前から途絶えたアサクサノリの養殖方法を復活させ参加者に食べていただく事で日本の食の豊かさを伝えたい。

プログラム内容：

1. 採苗から生産までの期間アサクサノリの生育状況や東京湾の海況をリアルタイムでメール又はFAX等にて参加者に配信する。（実施期間のみ）
2. 順調に生育した場合は、海苔柵見学会を数回実施して任意で参加していただく。
3. 順調に生産された場合は、アサクサノリ試食会を実施して任意で参加していただく。
4. 順調に生産された場合は、参加者に無料で100枚（予定～生産枚数により変わります）の乾海苔アサクサノリ（1番摘みと2番摘みのみ）を配布する。
5. 順調に生産された場合は、里海の会で報告書を作成し参加者に配布する。

注意：

1. アサクサノリの生産は不確実です。その事を認識していただき生産が失敗した場合は主催者側の違約金等は発生しない事を確認する。
2. 参加費の金銭取引は乾海苔アサクサノリ配布時に代金引換にて行われる。但し海苔柵見学会やアサクサノリ試食会はその都度参加者に別途参加費を徴収します。
3. 予定枚数が生産されない場合は生産枚数で1口の配布枚数を決定して参加費もその枚数に比例した金額とする。（例：1口80枚配布の場合は参加費が6,400円）
4. 余剰金が出た場合は参加者に還元できるプログラムを組み実施する。
5. 生産不可能の場合はその時点でこのプログラムは終了する。その場合は参加費（金銭取引）は発生しない。

アサクサノリとは：

浅草海苔ってなに？・・・江戸の時代に、江戸の海品川近辺で海苔養殖が始まり、紙漉（かみすき）にヒントを得て海苔を四角に（全形）薄く加工するようになりました。

名前の由来は色々ありますが、東京の浅草門前市で売られ始めた事からの命名と思われる。その当時から1960年代までは東京湾から有明海まで養殖されているのは浅草海苔でした。ここで言う浅草海苔は、【アサクサノリ】と言う種の海苔です。

現在生産されている海苔は、ほぼ 100%【スサビノリ】と言う種です。

1965 年それまでの天然種付けから、人工種付けが実施されると共に今は埋め立てられた干潟海域「千葉の奈良輪」と言う海で【ナラウスサビノリ】と言うスサビノリの品種が選抜されました。【ナラウスサビノリ】の特徴は、色が黒い！伸びがよい！病害に強い！と良い事ばかりですすぐに全国に広まりました。それ以降【アサクサノリ】は養殖されないようになりました。

【アサクサノリ】は 2000 年の環境庁発行のレッドデータブックにて"絶滅危惧 類"と判断されました。アサクサノリの生育地である内湾などの河口に広がる干潟が減少したのがその主な原因と考えられます。また、【アサクサノリ】の特徴は、色が赤め、海苔が柔らかい、病害に弱い等で、養殖にはあまり適さないと考えられています。海苔は黒くて艶があるモノが高級品とされ高値で取り引きされます。そのような理由から【ナラウスサビノリ】になり、【アサクサノリ】は養殖されなくなったのです。

みなさんの知らないうちに海苔は変わっていったのです。こうして生育地も減少、養殖にも使用されなくなり、アサクサノリは絶滅の危機に瀕するまでに減ってしまいました。現在【アサクサノリ】の生育が確認されている海域は数少ないです。群生しているわけではなく、かろうじて確認されているだけです。数年後には絶滅の可能性も大きいのです。

【アサクサノリ】は環境の変化と共に絶滅に近づきます。江戸時代は東京湾の千葉富津海岸から東京～羽田・横浜の海岸に掛けて全面が遠浅でした。葦がはえ河川からは森林の栄養豊かな水が流れ生き生きと群生していたのでしょ！防波堤、工場建設による埋め立て開発により、ほとんどの干潟が消えて無くなりました。東京湾内では、三番瀬、盤洲干潟、富津干潟等を残すのみです。中でも盤洲干潟小櫃川河口は江戸時代と変わらぬ海域を残しています。その江戸前の海を継ぐ盤洲干潟にて、【アサクサノリ】復活を試みています。

里海の会のチャレンジ

個人から里海の会に移行し 2001 年から 6 年目のチャレンジとなります。2004 年 11 月に 6,000 枚 (3,000 枚×2 回) 生産しました。生産されたアサクサノリの味・香り・食感は同時期に生産されたスサビノリに比べ数段良かった。(生産者の試食会にての感想)但し、スサビノリに比べアサクサノリは環境や気象に非常に左右されます。5 年間実施して 1 年のみ 20 年以上の海苔養殖経験者が数名いる中一人が生産しただけと言うことでお分かりいただければと思います。

多摩川河口のアサクサノリ

千葉県立中央博物館分館海の博物館の菊地則雄研究員と多摩川河口にてアサクサノリの探索を数年実施しました。菊地則雄研究員の研究により DNA 判定にて東京湾で唯一のアサクサノリと同定されています。2006 年 2 月 4 日に探索会を実施する。TV・新聞報道多数される。そのアサクサノリは 2005 年に採苗試験するも失敗する。

(5 ページ目の参加申込書 (FAX 用) 及びホームページからお申込みください。)

【アサクサノリ復活計画 2006 年度プログラム 作業工程及び経費概算】

2006 年 9 月中旬野外採苗（糸状体 3000 枚～佐賀市漁協成功品種）/ 36 枚×6 人 = 216 枚

採苗場所：盤洲干潟 中島地先浜 1 基設置（予定）/ 畔戸地先浜 1 基設置（予定）

カキガラ冷却場所：（未定）・・孢子放出促進作業

生産予定枚数：10 万枚生産目標

【作業工程概算】

糸状体カキガラ搬入～糸状体カキガラ冷却～糸状体カキガラ落下試験～落下確認～採苗準備（プラ竹半ズボ準備）2 基 中島地先 1 基/畔戸地先 1 基（8 日間）

1 回目採苗（1 日間）～着生確認～展開（2 日間）/ 2 回目採苗（1 日間）～着生確認～展開（2 日間）/ 育苗（20 日間）/ 展開（支柱 2 枚重ね×6 枚×3 柵）（2 日間）

冷凍（状況次第）/ 生産（1 回 8,400 枚を 2 回生産×6 人 = 約 10 万枚予定）（2 日間）

【経費概算】

一人当たりの資材費・人件費

海苔網：3,200 円×36 枚 = 43,200 円（129,600 円÷3 年償却）

支柱棒：（800 円×90 本）×3 柵 = 108,000 円（216,000 円÷2 年償却）

その他資材：30,000 円（ロープ・リング他）

陸上作業費：15,000 円×8 日 = 60,000 円（120,000 円÷2）

陸上運搬費：5,000 円×2 日 = 10,000 円

傭船代金：15,000 円×30 日 = 225,000 円（450,000 円÷2）

海上作業費：15,000 円×30 日 = 225,000 円（450,000 円÷2）

加工賃：88,200 円（16,800 枚×1 枚 5.25 円）

・ 小計：789,400 円

・ 6 名小計：4,736,400 円（789,400 円×6 名）

【他経費概算】

糸状体カキガラ代金：126,000 円（42 円×3,000 枚）

包装代金：300,000 円（30 円×10,000 袋～10 枚入り）

梱包代金：200,000 円（200 円×1,000 件）

宅配・代引き料金：810,000 円（810 円×1,000 件）

漁協共販手数料：400,000 円（5%）

報告書・印刷等雑費：300,000 円（300 円×1,000 部）

広報・メール配信・HP 作成・更新費：100,000 円

研修費：180,000 円（佐賀市漁協あさくさのり保存会の視察及び意見交換）

・ 小計：2,416,000 円

・ 合計：7,152,400 円

チャレンジ！絶滅危惧種 アサクサノリ復活計画 参加申込書（FAX用）

FAX送信先：0438-41-1344

チャレンジ！絶滅危惧種 アサクサノリ復活計画プログラム参加概要を理解して下記のように参加申込みをいたします。

申し込み口数： _____ 申し込みます。（1口8000円）

氏名： _____

郵便番号： _____ - _____

住所： _____

住所2： _____

電話番号： _____ - _____ - _____

FAX： _____ - _____ - _____

E-mail： _____

通信欄：